

1. ギャラリーウエアミー

東京芸大出身の片山かおるさんが鍍金で造型した流麗な自作のアクセサリーを展示。地元作家らの陶器や絵画、服飾作品の企画展も開く。湯村泰子さんらの少女漫画展も好評。

玉川学園前1-22-14 ☎042-729-0079 12:00~18:00 水・土曜は「nico kitchen」が名物コッペパンを販売



白壁で落ち着いたギャラリー空間

イベントスケジュール

◆10月18日(日)~24日(土)
人形衣装のオートクチュール展
◆10月30日(金)~11月12日(木)
一枚だけの少女漫画~小さな額絵展~
※11月1・8日(日)は休み



柔らかなフォルムが特色の宝飾品



3. 小さなミュージアム

独エルツ山地地方の工房約百カ所から、くるみ割り人形や煙出し人形など、木製工芸品を直輸入し、展示販売する。人形の作風や歴史などに関する館長・中村一行さんの解説も興味深い。

広袴町522 ☎042-734-9708 作品見学・購入は予約制で受付※ただし年内は巡回展示会出品のため展示は休止中 <https://www.cal-ny.com/>



素敵な洋館づくりの建物と中村さん

5. ピアノカフェショパン

地元ゆかりの若手から世界的ピアニストまで、グランドピアノで「ジャンルを問わない」生演奏を聴ける「ピアノカフェショパン」。時を忘れてしまう癒しの空間では、生演奏で好きな歌をソロで歌える「歌声喫茶」も開催。

小野路町4294-1 ☎070-2185-1889 OPEN10:00~ 歌声喫茶 第1・3水曜/毎週金曜14:30~ HP【ピアノカフェショパン】検索 駐車場有 コロナウイルス対策しています



自然の中にある隠れカフェ



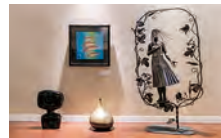
世界的ピアニストも演奏



グランドピアノがあり、音楽発表会にも利用される



同館の萩原崇弘代表と杉浦美代子さん



絵画、工芸作家の作品を所蔵する

イベントスケジュール

◆10月18日(日)~25日(日)
金大偉特別展「夢幻と桃源郷」
◆11月18日(水)~23日(月)
戸出克彦 作陶展

2. ギャラリーカフェアルル。

鍛金作家の中村三喜雄氏や版画家の鹿嶋裕一氏ら地元作家をはじめ、約70人の作品を所蔵し、年数回の企画展を開催する。広く静かな空間は貸ギャラリーや演奏会場としても人気だ。

小山ヶ丘3-22-18 ☎042-705-5096 11:00~19:00 (休火曜) <http://www.g-alulu.jp/>



絵画や工芸、音楽を身近な場所で鑑賞し芸術の秋を見つけてください。

町田アートギャラリーを訪ねて

住まいも音楽も、共通点は「クラシック」 古き良き団地で奏でるメロディー



180cmある宏幸さんより背が高い大きな掃き出し窓から、明るい陽射しが届くリビング。庭先には隣接地の緑が広がり、「静かすぎるほど静かです」

全国各地で少子高齢化や老朽化が進む団地。一方で、昭和レトロな雰囲気や緑豊かな住環境を好み、自分らしくリノベーションして住むスタイルも近年注目を集めている。小山田桜台団地に住む横溝さん夫妻に、その魅力について話を聞いた。

家事がしやすいよう工夫された間取りで、棟の間隔は十分すぎるほどの余裕があり、敷地内は緑も豊か。「団地は築年数が経過していても住まいとしてのコンセプトは決して古くなく、むしろ健康や環境に配慮した『スマートシティ』の要素すらあると思うんです」

横溝宏幸さん(37)は独身時代、後に妻となるあみさん(35)の実家があることで訪れるようになった小山田桜台団地に魅力を感じていた。「近所同士でおすそ分けをする習慣があったり、どこからともなく夕食の匂いが漂ってくるのも良い」と、あみさんも人情味あふれる暮らしがお気に入り。結婚後、二人の新居として団地を選択することに時間は必要なかった。

購入したのは、あみさんの実家と同じ小山田桜台団地の長屋タイプ。階段室型ではなく、二階建ての住宅が連なる独立性の高いタウンハウスにフルリノベーションを施した。

こだわりは、リビングルーム脇の防音スタジオ。実は宏幸さんはチェロ、あみさんはフルートのプロ奏者で、職業柄、自宅でも日々の練習が欠かせないからだ。ここでは『ヨコミゾヒロユキ』の名で活動する宏幸さんのCD制作を行うこともあるが、三重サッシにより室外への音漏れは一切なし。

とはいえ、人と人が程よくつながっているのが団地の良さ。近所づきあい希薄化していると言われる現代だが、「チェロの人だね」と声を掛けられて話が弾んだり、市役所でコンサートを行った時には住人が観に来てくれたこともあった。団地と言えば楽器の音を出しづらいイメージもあるからこそ、周囲の理解に「嬉しいですね」と宏幸さん。



三重サッシで室外への音漏れは一切なし。リノベーションで自宅内に設置した本格的な防音スタジオで、日々練習に励む

習が欠かせないからだ。ここでは『ヨコミゾヒロユキ』の名で活動する宏幸さんのCD制作を行うこともあるが、三重サッシにより室外への音漏れは一切なし。

とはいえ、人と人が程よくつながっているのが団地の良さ。近所づきあい希薄化していると言われる現代だが、「チェロの人だね」と声を掛けられて話が弾んだり、市役所でコンサートを行った時には住人が観に来てくれたこともあった。団地と言えば楽器の音を出しづらいイメージもあるからこそ、周囲の理解に「嬉しいですね」と宏幸さん。

たとえば、6畳ほどある広々としたキッチンの一角に洗濯機置き場があったり、窓枠が広々と天井の高さまでであったり。外観こそシンブルだが、「団地はそこに生活する人の快適さを第一に、よく考えられている」と宏幸さん。それは、クラシック音楽の伝統や格式を重んじながらも、「人々の生活に浸透してこそ意味がある」を信条とする自身の演奏活動と本質は同じだ。